

人間を類型化して理解する

～パソロジーからタイポロジーへ～

富岡 昭*

自分は一体どんな人間で、どうしてある人とは仲良く出来るのにある人とは仲が悪いのか悩み、苦しむ事は多少の差はあれ毎日誰でも経験している。この問題は人類が地球に生まれて以来続いて居るようで、古代ギリシャの古文書にも人間を類型化して理解しようとした形跡が残されている。

この論文では19世紀に発表されたドイツのクレッチュマーの気質論をベースにして組織行動学的に人間の気質・性格の違いを六つの違ったタイプに類型化し、その特徴を明確にし、自分のタイプを割り出していく手法を開発した。自分をより深く分析し、また他人を感情的に決めつけたり、人間なんて皆そんなものだとか諦めずに、自分のどこが他人とどの様に違うか納得し、他人をありのままの姿で受け入れる事が出来るようになれば、人間関係の悩みや争いは軽減するものと考えられる。

性格は人間の違いや共通点を決めるどちらかという安定した特徴と考えるのが一般的である。例えば、マディによると、性格とはある人間の心理的行動、思考、情緒、価値観等における共通点と相違点を決める時の基準となるもので、しかも環境の違い、社会的習慣、生理的な違い等の因子が加えられても変わらず、一定期間にわたって恒常的に観察され、また極めて安定している一連の特性とか傾向を指すと定義している。¹ 人間の特徴を性格あるいは人格と言う言葉で表現する機会が多いが、性格とか人格の英語 personality という言葉の語源はラテン語のペルソナ(仮面)に由来すると一般的に言われている。つまり、その人らしい特徴とは外から観察できる部分をその人の仮面と認識していたのであろう。しかし、最近ではその人の社会環境への対応、精神的成熟度、知的レベル、感情の起伏等の因子を含めて性格という概念を定義している場合が多いのでここではマディの定義に沿って論

議を進めていきたい。

職場で最も頭の痛いのは人間関係で、どうしてあの人と仲が悪いのかさっぱり分からない等よく聴く話である。しかし、この悩み、苦しみは昔からあったようで、人の違いを気質とか性格の違いで理解しようとしたことは古文書などにも残っている。例えば、テオプラストス(前372-前288)は多弁な人、けちな人、貪欲な人、へそまがりの人と周りの人間の行動を鋭く観察している。² 古代ギリシャ人の行動とバブルが破裂して慌てふためいている現代の日本人の行動にあまり違いがないのに気がつきびっくりする。

気質・性格の研究は紀元前の昔からあった

この様に人間を類型化し、理解するやり方は紀元前四世紀頃にギリシャの医聖ヒポクラテス(前460-前375頃)がエンペドクレスの宇宙論、つまり宇宙は空気、水、火、土の四つの要素で成

* 東京情報大学教授

り立っているというモデルを転用し、病気とその原因の因果関係を研究（これをパソロジーと言う）し、人間も血液、胆汁、黒胆汁、粘液の四つの体液で成り立っているのではないかと考えた。ガレノス（129-198）はこのヒポクラテスの体液説に基づいて、人間をタイプに分類して理解（これをタイポロジーと言う）しようとして、胆汁質、多血質、憂鬱質、粘液質の四つの違ったタイプに分類している。

胆汁質の人間はせっかちで怒りっぽい、しかし、積極的に意思が強いタイプ；多血質は快活で明るく、順応生が高いが移り気タイプ；憂鬱質は用心深く、消極的で悲観的、しかし常に夢を見ているタイプ；粘液質は冷静で勤勉、落ち着いていて動揺が少なく、コツコツと決められた仕事をこなすタイプと分類している。

その後性格理論の進展は見られなかったが、十九世紀に入るとヨーロッパ、特にフランスやドイツにおいて人間を類型化する研究が盛んに行われた。タイプに分類する根拠を内因性性格異状の特徴に求めたドイツの精神医学者クレッチュマーの体型と性格の比較研究とか正常者の統計から分類したアメリカのシェルドンの内分泌モデル等がよく知られている。文化的価値観の違いで人間の分類をしたのはドイツのスプランガーである。スイスの精神医学者でフロイドの弟子であったユングは心理的な違い、例えば、外向性か内向性等のタイプで人間を分類している。³ その外にも多くの類型モデルが発表されているが、それぞれ独立しており、統合化はされていない。

気質と性格と人格の違いであるが、一般的に気質とは先天的で固定的な感情の特徴で環境等からの影響を受けにくく、また簡単に変化しないと言われている。性格は環境などの影響で後天的に形成される行動特性（心理的側面）を指す場合が多い。気質は性格の下部構造で多分に遺伝的な因子であると考えられている。性格に道徳的な面を加えると人格となり、その人の置かれている環境によって少しずつ変化すると言われている。

ここではクレッチュマーの精神病理学的な類型モデル：循環気質、分裂気質、粘着気質をベースにして、性格特性として、ヒステリー性格、神経質性格を加え、さらに宮城音弥の主張するパラノイアの六つのタイプで人間の類型化をしたい。⁴

循環気質の特徴

Zタイプ (Zyklothymie)：循環（そううつ病）気質：開放的で社交的なタイプ

1. 社交的で、誰からも親しまれ、開放的である。気持ちの中に暖かさと柔らかさを持っていて、冷たく人を拒否する事がない。
2. 穏やかでひねくれたところがなく、善良な心の持ち主であるが、活動的ではない。
3. 明るくユーモアがあり、心の底からエネルギーが溢れるような感じを与える。⁵

Zタイプの特徴は相反する気質がある期間で循環する点である。気持ちが高揚して舞い上がっている状態の時と逆に落ち込んで何もする気が起きなくなる状態が繰り返される。

そう状態の特徴：開放的で明るい感じを周りの人達に与え、思考よりも行動が優先する。疲れを知らぬ行動力、決断も早く自信に満ちており、てきぱきと仕事をこなし、集団を巧みにまとめ、統率し、環境の変化にも素早く対応していく。多弁で世話好きなので、部下にも慕われ、頼りにされ、有能な管理者と見られる。

しかし、自分勝手に物事を解釈するところがあり、また思考に一貫性を欠く所が欠点である。よく考えないで発言し失言したり、話の論理構成に無理があったりするが、そのために憎まれることはない。自分に自信があるので、他人に対する干渉が多くなったり、独善的な言動が見られる。

うつ状態の特徴：静かで沈んだ印象を与える。口が重く、自分から積極的に働きかける事は少ないが、話しかけられると穏やかに答える。物事を慎重に受けとめるので敏速な決断は出来ない。しかし、やるべき仕事は真面目にこなし、他人を

傷つけるような言動は見られず、周りの人たちから憎まれたり、嫌われたりはしない。

同じ人がそうとうつの特徴をある期間をおいて示す場合と、人によってはどちらかというところが強く出る人とうつが強く出る人がいると言われている。一般的には周期的に波がある人が多く、張り切って仕事していた人が、ある時を境にしてこれといった理由もないのに気持ちが落ち込み、過ぎたことをくよくよと愚痴ってみたり、何気なく言ってしまったことを思い出して、あの人に悪いことをしてしまったと気にして夜も眠れない状態に悩む事になる。循環気質と言われる所以である。

Zタイプの体格は全体に丸く肥満型である。書く字もやや大きめで丸く柔らかな印象を与え、いかにもすらすらと書いたと言う感じがする。

自分と周りの人達との間に対立はなく、状況に応じて対応することが出来る。時に怒りを爆発させることがあっても後に尾を引かず、すっかり忘れてしまう。何かで論議が揉めても「マアマア」と言いながらその場をまるく収め、自分の意見や考えに固執する所がなく、極めて妥協的である。気分的に飽きやすくムラがあるが憎まれる程ではない。徳川家康がこのタイプである。

分裂気質の特徴

Sタイプ：Schizothymie：分裂病気質：内気で生真面目、頑固で意地っ張りなタイプ

1. 非社交的で真面目、内閉的で自分の世界に閉じこもり勝ちで変わり者と言われる。
2. 敏感で傷つきやすく臆病、神経質で興奮しやすく、凝り性である。
3. 物事に対して感受性の鋭い面と鈍感な面とが同居している。

体系はやせ型でほっそりしており、行動力に欠け、エネルギーなどところを感じられない。上に述べたZタイプと対照的な気質で、その特徴は自分の興味があるかないかで極端に違う点である。例えば、エジプトのファラオ時代の文字や壁画に夢中になるかと思うと一日中ぼんやり

としている。興味がある事柄に対しては情熱がほとばしる感じであるが、興味の無い事柄に対しては一瞥もしない面がある。偏屈で融通がきかず、妥協することがなく、意地っ張りで表情も固く、些細なことに決心がつかず、迷っているかと思うと重大なことをあっさりとは衝動的に決めてしまう面がある。冷たい笑いを浮かべながら相手の心に突き刺さるような皮肉を平気で言ったりする。

主な関心は自分自身の内的な世界で、外界に興味を示さない。決められた仕事はきちんとするが、仕事が終わってみんなで何処かで一杯やろうと誘っても気が向かないと無愛想に断って仕舞う。お世辞を言うとか、ゴマをする事が出来ない。宴会でみんなが騒いでいても一人冷たく眺めていて、本人は少しも気にしていない。通常は無口で気難しく、何を考えているのか見当がつかない。とてもやさしい時があるかと思えば、無愛想で横柄な時もある。自己中心的で相手の立場などは考えないことが多く、冷たく貴族的で傲慢なところがあるが、その行動は理性的で物事に対して客観的な態度をとり公平である。Zタイプのリーダーに頭の切れるSタイプの人がブレンとなってチームを組めば最高であると言われる所以である。織田信長はこのタイプで次に述べる粘着気質も混じっていると考えられる。

粘着気質の特徴

Eタイプ：Epileptisch:粘着（てんかん）気質：がんばり屋でしつこく、頑固なタイプ

1. 几帳面で物事がきちんと整理されていないと落ち着かない。確実であるが融通がきかず、妥協する事が出来ない。
2. 礼儀正しく義理堅い。社会の習慣を尊重し、非常識なことはしない。約束事は忠実に守る。人格の鍛練とか精神修養に熱心で、哲学とか宗教関係の本を熱心に読み、人間的に成長したいと心がけている。
3. 粘り強く、一度やると決めたらどんな事があ

ってもやり遂げるしぶとさがある。がんばり屋で少しずつ努力を重ねてついに目標を達成する事に生き甲斐を感じる。

体型は筋肉質で肩幅が広く、猪首でがっしりとしていて闘士型である。胸は逆三角形をしており顔も鰓が張っており角張っている。

Eタイプの特徴は粘り強い点である。始めはどうなることやらと周りの人達をはらはらさせるがコツコツとたゆまぬ努力を重ね、素晴らしい結果を出して周りの人達を驚かせる事が多い。1992年のバルセロナ・オリンピックで銀メダルに輝いた女子マラソンの有森裕子はこのタイプであろう。

仕事熱心で自分の専門としている事に執念に近い情熱を燃やし、世のため、人のために尽くすタイプである。自然科学や会計学等の大学教授にこのタイプが多い。しかし話は概して回りくどく要領を得ない事が多く、多くの学生が辟易する事が多い。品質管理で有名なデミング博士もニューヨーク大学で彼の授業を取った著者の友人に言わせるとどうしてあのデミングが日本で有名になったのか未だに信じられないと首を傾げていたが、デミングもEタイプであるに違いない。学生がすぐ眠たくなるような授業をしても、よく聞いてみるとどこか鋭く本質を掴んでいる事が多い。そのポイントを日本の現場の人達が吸収し、日本製品の品質向上に結びつけるきっかけを彼が与えたと考えたとよく分かる。着実に手堅く、周りの人々に対する節度を弁え、礼儀正しいデミングの気質が日本の社会慣習に合っていたのであろう。知的レベルの高いEタイプは真面目で温厚な紳士が多いが、貧困家庭に育ち、逆境に揉まれているEタイプは物欲や権力欲が異状に強く、策略を弄してでも権力を握ろうとする人が多く、また酒色の誘惑に弱い所が欠点である。知的レベルが低いEタイプは頑固ですぐカッとなり易く、些細なことで喧嘩をしたり、負けたら執念深くその恨みを忘れず、残酷な復讐をしたりする。普段は律儀で温厚であるが、一度怒りだすと手がつけられないのがこのタイプである。

ヒステリー気質の特徴

Hタイプ：Hysterisch: ヒステリー性格：華やかで嫉妬深く、精神的に未成熟なタイプ

1. わがままで勝気、嫉妬深くて派手好き、依頼心が強く見栄っ張りである。
2. 人の好き嫌いが激しく、自分を受け入れ、賞賛してくれる人達に囲まれていないと不安になる。自分よりも実力がある人が出てくると、中傷し、故意に無視したり、蹴落とししたりする。
3. 自分の思うように事が運ばないと周りの協力が無かった、相手が邪魔した、景気が悪くなったせいだと失敗の原因を外部に帰因させ、自分が悪かった、努力が足りなかったとは考えないところが人間として成長出来ない原因である。

体型は小児型で未成熟な感じを与える。特に精神的に未成熟で、顕示欲が強く、勝気で自己主張が強く、人の話には耳を貸さない。しかし、いつもお山の大将でないと機嫌が悪い。虚栄的な傾向があり、実力以上に自分を見せようと虚勢を張り、時には平気で嘘をつき、インチキをしてでも相手に勝ちたいと考えるマキアベリアン的な権謀術策に走り、非難される事が多い。控えめに振る舞うよりもパッと目立つことを望み、我慢して耐えるよりもオーバーに発散してしまうタイプである。顔の表情も豊かで、全体として知的で利口そうに見える。相手が弱いと見ると徹底的に攻撃を加え、容赦しないが、自分よりも強い者には見苦しいほど迎合する。誰が権力者で、何が時代の趨勢であるか敏感に察知し、何時も日の当たる所に居ないと機嫌が悪い。

最も不快なことは周りの人達から無視され、黙殺されることである。誰でも皆から注目されたい、誉められたいと考えるが、Hタイプのこの願望は異状に強く、また執念深いところが特徴である。

Hタイプの人達には誠実さが感じられない。華麗であるがどこか暗く、賑やかに行動しているが精神的には孤独である。表面的には親切そ

うで社交的である。しかし、親切にしてやったと言う意識が強く、その見返りを期待し、あの人には親切にしてやったのだと周りの人達に吹聴し、何時までも忘れない。朴訥とか誠実さとは縁のないタイプである。

スターのように華やかに振る舞い、颯爽としているが、それも実は異性の注意を自分に引きつける為であり、その異性が自分に興味を示すまでしつこく続け、相手が自分に興味を示すと途端に冷たくあしらう行動に出る。愛情表現が下手と言われる所以である。この様な行動を無意識のレベルでとり、自分でハッキリと意識している訳ではないから始末が悪い。愛情の表現が間接的なので、折角苦心して引きつけた相手が混乱して去っていく場合が多く、愛が実らない。第一印象が良くて人をそらさない話術やコケティッシュな素振りでも周りの人達を魅了するが、日が経つにつれて逃げだす人が増え、愚かな追従者だけが残る結果となる。何故そうなのか自分自身で理解できないだけに滑稽でもあり悲劇的でもある。明智光秀がこのタイプのいい例と考えられる。

何時まで経っても大人に成りきれない未成熟なタイプで、子供のようにわがままで、虚栄心が強く、世界は自分を中心にして回っていると信じているタイプである。

家裁の調停委員を長く勤めている人に聞いた話だが、原因として夫か妻のどちらかがいつまでたっても人間に成長しないからと言う場合が多いと言う。臨床的にデータを集めて分析してみると相関があるかも知れない。

宮城音弥によれば「フランスにはパラノイアが多いのに、日本ではヒステリーが多い。なぜだろう」とソルボンヌ大学に留学していた時に疑問を持ち、性格研究にのめり込んだそうである。北方領土返還の交渉をロシアとしているが、解決の兆しも見えないのは日本人のHタイプの特徴が出ているのか、ロシアにもヒステリーが多いのか、関係者はうんざりであろう。Hタイプの人間との付き合いで困ることは積み重ねが出来ない点である。

神経質気質の特徴

Nタイプ：Nervos：神経質性格：敏感で内省過剰タイプ

1. 感受性が鋭く、自分の外側や内側の変化を敏感に感じ取ってしまう。頭がよく、周りの人達が気づかないことまで感じてしまう。
2. 内省過剰である。失敗したらその原因は自分にあると考えるので、要らない取り越し苦労が絶えない。体の調子が少しでも悪いと病気ではないと心配し、大騒ぎをする傾向がある。
3. 精神的に不安定になりやすい。感受性が高いので傷つきやすく、他人の何気ない行動や言葉が何時までも心から離れず、悩んだり、苦しんだりする。相手の反応を考えすぎて言いたいことも言えなくなる。周りの人からはあいつは自分を出さない、何を考えているのか分からないから不気味な人間として避けられてしまい、友達が居ないと悩むことになる。

Nタイプの特徴は不安定感である。自分に自信が持てず、絶えず取り越し苦労をしていて、人の前に出ると上がってしまったり、気後れするので大切なときに失敗することが多い。神経質なので、物事に敏感で内性的になり、他人を責める前に自分を責める事になる。だから弱気になり易く、劣等感に悩まされ、落ち着きがなく、絶えずおどおどとしていて、何かをしても落ち度があつたのではないかと不安で、何度も調べ、それでも自信がなくまた調べたくなる。

この神経質性格は生まれた時の状況が不安定であつた事に関係があると言われている。例えば、生まれてすぐ里子に出されて母親の愛情を知らずに育ち、何時も保護者から捨てられるのではないかと不安で、ぐっすりと眠った経験がない人などに多いと言われているが臨床的に証明されているわけではない。豊かな感受性、デリケートな感覚、決して人の悪口を言ったり、非難したりする事がなく、良心的で慎重な生活態度を維持するなど得難い特徴を持っている。攻撃的なところがなく、頼り甲斐のある信頼の置ける人間で、他人が困っていれば親身になって相

談に乗ったり、自分の事を後回しにしても面倒を見る方で、しかも決して出過ぎたことはないタイプである。劣等感に悩み、正夫人の北の政所に頭の上がらなかった豊臣秀吉がこのタイプであることは間違いない。

パラノイア気質の特徴

Pタイプ: Paranoisch: 偏執 (パラノイア)
 気質: 自信に溢れ自己中心的なタイプ

1. 生きることには強気である。逆境に置かれ、苦境に立たされると俄然元気が出るタイプで、自分の力で何とかする事が出来ると信じて頑張り抜く。自分に対する満々たる自信が生きる事を積極的にさせている。
2. 一つの考えが一度定着すると変えることが難しい。自分がやって来たことは間違いないし、これからやろうとしていることも間違いないと固く信じて生きている。自立心が高いのですべて自分でやろうとし、他人に任せることが出来ない。
3. 俺が俺がと他人を押し退けて自分のやりたい事に固執したり、自分の考えを押しつけ様とするので周りの人達から敬遠される。

Pタイプの体格はEタイプに近いが、中肉中背で頑丈な身体つきをしており、目がらんらんと光っていて精悍な印象を与える顔だちの人が多い。

Pタイプの特徴は抗争的で攻撃的である。自分が正しいと考えていることが周りの人達に認められないと躍起になってその正当性を主張する。そのために上司から嫌われたり、退社しなければならないようになって最後までやらないと気がすまないタイプなので、サラリーマン向きではない。一匹狼のコンサルタントとか中小企業の創業社長によく見られるタイプで、周りの人から見れば愚かな行動と考えられる事でも本人はそうしないと自分の存在価値がなくなるので気が済むまでやるタイプである。

Pタイプの人で能力的に優れていて、権力を持っていたりすると迎合する人が出てくるが人

間的な魅力を感じる人は稀である。これがPタイプ人間の宿命的悲劇であろう。「我に艱難辛苦を与えたまえ」と神に祈った山中鹿之助がこのタイプであろう。

まとめ

性格理論は数多く有り、これが最も良い理論だというものはない。ある場合にはある理論が適当であり、また他の場合には他の理論が適切であると言う場合が多いので厄介である。仮面としての人間の性格は心の深層に関連していて解剖して観る訳にもいかず、また時間とともに変化するので理解することが非常に難しい。外から観察することが出来る行動とか言葉でその人の性格を憶測するしか方法がない。性格をその人の仮面と理解し、その人の実像をその仮面から判断する為に絶え間ない努力が必要である。この論文の最後に著者が開発した気質・性格テストがある。質問項目をチェックし、集計用紙に記入し、合計すれば自分の気質・性格が出てくるようになっている。周りの人間をタイプで決めつけるのではなく、自分の性格を類型化し、自分をより深く理解する参考にして頂ければ幸いである。

参考文献

- 1) マディ (Salvatore R. Maddi) は多くの性格理論を比較研究しこの定義が最もいいと「Personality Theories: A Comparative Analysis」, 4th ed. Homewood, Ill. Dorsey, 1980の10ページに述べている。
- 2) アリストテレスの弟子であったテオプラストスに興にまかせて古代ギリシャ庶民の生活特性をまとめた「エチコイ・カラクテレス」には民衆の身すぎ世すぎのスケッチ三十編が面白く述べてある。この本は森進一訳「人さまざま」、岩波文庫で読むことが出来る。
- 3) カール・グスタフ・ユングはスイスの心理学者で精神医学者でフロイトと一緒に仕事をしていたが意見が合わず、悩んだ末にリビドー概念をフロイドの様に性的エネルギーではなく人間の精神的エネルギーと定義した。

ギーと捉え、そのエネルギーは外に向かう外向性（フロイト）と内に向かう内向性（ユング）のタイプがあると考えた。更に四つの根本機能を加え、8つのタイプで性格の類型化をしている。

- 4) エルンスト・クレッチュマーの気質による類型化については、「天才の心理学」が内村祐之訳で岩波文庫から出ている。英訳では「Physique and Character」が1925年に London: Routledge & Kegan Poul から出ている。天才の創造活動と精神障害との関係について病跡学的データに基づいて検証している。普通の人間から逸脱した天才とか精神病者に人間の気質・性格の特徴が顕著に出てくるからであろう。クレッチュマーの分類したタイプの特徴については宮城音弥著「性格」、岩波新書、1960、宅摩武俊著「性格」、講談社現代親書、1971に詳しく述べてある。
- 5) これらの特徴については白石浩一著「役に立つ性格学」、現代教養文庫、社会思想社から引用した。同じ気質であっても幾つかの群にまとめたほうが分かりやすい。1はそう状態、2はうつ状態、そして3は軽いそう状態が恒常的に観察される場合の特徴である。同じ様に他のタイプについても3つにグループ化して特徴をまとめた。

A T 式 気質・性格テスト

毎日の自分の行動や考え方について、各項目の叙述が当てはまる時はハイ (Y)、当てはまらないと感じた時にはイイエ (N) で答えて下さい。社会的に望ましいか否かではなく、自分にその様なところがあると感じた場合はハイ、その様なところはあまりないと感じた場合はイイエで答えてください。当てはまらないと感じた場合はその項目はとばしてください。全部で72問あります。一番最後にある集計用紙にYとNを記入して合計してみると自分の気質・性格のタイプが出てくる様になっています。

- | | |
|--|-----|
| 1. 見ず知らずの人にも気軽に声をかけ、嫌な顔をされても気にしない。 | Y N |
| 2. 几帳面で、何事でも丁寧にしないと気が済まない。 | Y N |
| 3. 自分のプライベートな面は他人に知られたくない。 | Y N |
| 4. 苦しい立場に立たされるとむくむくとファイトが湧いてくる。 | Y N |
| 5. 周りの人達には負けたくない意識してしまう。 | Y N |
| 6. 他人が自分をどの様に見ているか何時も気になり取り越し苦労をする。 | Y N |
| 7. 頼まれると断れない方でつい沢山の仕事を引き受けてしまう事が多い。 | Y N |
| 8. 礼儀正しく、義理堅いが、頑固だと周りの人達から言われる事がある。 | Y N |
| 9. 他人の気持ちに鈍感な所があり自分でも嫌になる。 | Y N |
| 10. 将来志向で積極的に物事に取り組み、生きることに楽観的である。 | Y N |
| 11. 友人や知人が成功したら悔しいと思い、失敗したら心の中で安心する。 | Y N |
| 12. 人から欠点などを指摘されると気になり、全てに悲観になる事がある。 | Y N |
| 13. いじめられている人や、困っている人を見るとつい助けたくなる。 | Y N |
| 14. 人間的に成長したいと考えているので立派な人を見ると尊敬する。 | Y N |
| 15. 何か始める前にためらう事が多く、どうしたらいいか悩む事が多い。 | Y N |
| 16. 自分の能力に自信があるので、他人に任せられない所がある。 | Y N |
| 17. 人の好き嫌いがハッキリしていて、好きな人としか付き合いたくない。 | Y N |
| 18. 失敗の原因は何時も自分にあると考える事が多い。 | Y N |
| 19. 状況に応じて判断する方で、考え方が柔軟であると言われる事が多い。 | Y N |
| 20. 物事がきちんと整理されていないと落ち着かない。 | Y N |
| 21. 悪気はないのだがつい皮肉を言うってしまう事がある。 | Y N |
| 22. 自分にとって都合のいい様に物事を解釈する事がある。 | Y N |
| 23. 理知的で、きらきら輝く様な人という印象を与えたいと気を配っている。 | Y N |
| 24. 物事を決める時にあれこれ迷って決心がつかない事が多い。 | Y N |
| 25. 周りの人達におだてられるとつい調子に乗る所がある。 | Y N |
| 26. 一度やると決めたらどんなに苦しくても最後までやらないと気が済まない。 | Y N |
| 27. 他人の不幸に同情していてもその気持ちを上手に表現できない。 | Y N |
| 28. 自分なりの考えや信念を持って生きている。 | Y N |
| 29. 周りの人達から無視されたり黙殺されたりすると機嫌が悪くなる事が多い。 | Y N |
| 30. 出過ぎた事はしたくないと考えているので、つい無口になる事が多い。 | Y N |
| 31. 物事に対して常識的で、どちらかというところ妥協的である。 | Y N |
| 32. 自分の意見が無視されると、興奮してカッとなり自分が押さえられない。 | Y N |

- | | | |
|---|---|---|
| 33. 喜怒哀楽の感情を表に出さない方だと言われる事が多い。 | Y | N |
| 34. 何でも打ち明けて話が出来た友人など居なくても気にならない。 | Y | N |
| 35. 何かをして失敗しても自分が悪かったとは思わない方である。 | Y | N |
| 36. 嫌な事があったり、神経を使う事が続くと体の調子が悪くなる。 | Y | N |
| 37. 喜びや悲しみの感情を率直に表現することが出来る方である。 | Y | N |
| 38. 自分が正しいと信じている事については意見を変えない。 | Y | N |
| 39. 表情が固く、親しみにくい人だと周りの人達からと言われる事が多い。 | Y | N |
| 40. あなたは横柄で傲慢な所があると友達からと言われる事が多い。 | Y | N |
| 41. 周りの人達の意見を聞いていると成る程と納得する事が多い。 | Y | N |
| 42. 何かをやるうとして上手くいかないといふ愚痴っぽくなる。 | Y | N |
| 43. 現実志向でやるべき事をきちんと片づけていないと気が済まない。 | Y | N |
| 44. 正義感が強く、曲がった事が大嫌いである。 | Y | N |
| 45. 正直に言うと人間嫌いであるが時には人間大好きになる事もある。 | Y | N |
| 46. デリケートな感覚とか人の気持ちを察することは下手である。 | Y | N |
| 47. 自分よりも能力があり出来る人間に出会うと意気消沈する。 | Y | N |
| 48. 周りの出来事に敏感で考え過ぎになる事が多い。 | Y | N |
| 49. 物事に対してひねくれた所がなく、誰からもいい人だと言われる。 | Y | N |
| 50. 執念深く恨みを何時までも忘れることが出来ない。 | Y | N |
| 51. お世辞や愛想が言えず、融通がきかないと言われる事が多い。 | Y | N |
| 52. 相手が間違っていると考えると徹底的に相手をやっつけたくなる。 | Y | N |
| 53. 自分に対する周りの評判が気になり、夜眠れない事が多い。 | Y | N |
| 54. 手紙を出した後で切手を貼り忘れたのではないかと気になる。 | Y | N |
| 55. 相手に分かって貰いたいと話がくどくなり要領を得なくなる事がある。 | Y | N |
| 56. 普段は周りの人達に気を使っているが時にカッとなる事がある。 | Y | N |
| 57. 他人と話をしているよりも、一人でいる方が楽である。 | Y | N |
| 58. 自分は価値のある人間でまた役に立つ人間であると信じている。 | Y | N |
| 59. 何時も周りの人達から注目されていないと気持ちが落ち着かない。 | Y | N |
| 60. 体の調子が少しでも悪いと病気ではないかと気になる方である。 | Y | N |
| 61. 他愛のない大言壮語をしてしまい、周りの人達から顰蹙 <small>ひんしゅく</small> を買う事がある。 | Y | N |
| 62. 手入れの行き届いた服であれば多少流行遅れでも気にしない。 | Y | N |
| 63. 通俗的な週刊誌を読んでいる人間を見ると軽蔑してしまう。 | Y | N |
| 64. 艱難辛苦を自分から求める求道者のな生活に憧れている。 | Y | N |
| 65. 周りの人達を敵と味方に区別し、自分の味方だけと付き合う傾向がある。 | Y | N |
| 66. 他人の何気ない言葉が何時までも心から離れず考え込む事が多い。 | Y | N |
| 67. 財産とか感覚的な享楽を求める方で酒色の誘惑には弱い。 | Y | N |
| 68. とかく物事を堅苦しく考え、まあまあでは気持ちが落ち着かない。 | Y | N |
| 69. 最初の印象とか直観で相手を判断してしまう傾向がある。 | Y | N |
| 70. 気楽に付き合う友人が少なく、周りの人達から敬遠されても気にしない。 | Y | N |
| 71. 外では恰好をつけて華やかだが、家に帰ると無愛想になる事が多い。 | Y | N |
| 72. ここ一番という大事な時に失敗したり、気後れしてしまう方である。 | Y | N |

これで終了です。集計用紙にYとNのどちらかに丸をつけ、縦の合計点を一番下に記入して下さい。
Yの合計が一番多いのが貴方の気質になり、Nの一番多いのが反対の気質になります。

集計用紙：A T 式 気質・性格テスト

1	Y N	2	Y N	3	Y N	4	Y N	5	Y N	6	Y N
7	Y N	8	Y N	9	Y N	10	Y N	11	Y N	12	Y N
13	Y N	14	Y N	15	Y N	16	Y N	17	Y N	18	Y N
19	Y N	20	Y N	21	Y N	22	Y N	23	Y N	24	Y N
25	Y N	26	Y N	27	Y N	28	Y N	29	Y N	30	Y N
31	Y N	32	Y N	33	Y N	34	Y N	35	Y N	36	Y N
37	Y N	38	Y N	39	Y N	40	Y N	41	Y N	42	Y N
43	Y N	44	Y N	45	Y N	46	Y N	47	Y N	48	Y N
49	Y N	50	Y N	51	Y N	52	Y N	53	Y N	54	Y N
55	Y N	56	Y N	57	Y N	58	Y N	59	Y N	60	Y N
61	Y N	62	Y N	63	Y N	64	Y N	65	Y N	66	Y N
67	Y N	68	Y N	69	Y N	70	Y N	71	Y N	72	Y N
合計											
Zタイプ		Eタイプ		Sタイプ		Pタイプ		Hタイプ		Nタイプ	

分析の仕方

多くの場合はYの合計が6つ以上のタイプが2つとか3つ混合して出てくる。例えばPが8、Eが6の場合はP eタイプと判定する。若しZが7、Eが8、Sが6と出た場合はE Z sとなる。またYの合計がすべてのタイプで6以上あるケースもある。その場合は自分が認識している自己イメージ、毎日の行動特状が自分で明確に把握されていないのではないかと考えられる。質問項目をもう一度チェックして、はっきりYとかNと言えない項目はとばしてYを集計してみると自分のタイプが出てくる場合が多い。しかし基本的には自我の確立が遅れていると考え自己分析をしてどこが明確でないか自分で研究してみる必要がある。